

## 口絵写真および災害の概要 長野県長野市小松原地先で発生した地すべり



発生直後の地すべり全景（7月6日撮影 提供：長野県土尻川砂防事務所）

〈災害の概要：斜面防災技術 Vol.48 No.3 口絵写真より〉

2021年7月6日午前6時10分ごろ、長野市篠ノ井小松原地先の国道19号犬戻トンネルの松本市側坑口付近で、長さ240m、幅150m、移動土塊量42.3万 $\text{m}^3$ の大規模な地すべりが発生した。人的被害はなかったが、隣接する廃棄物処理工場と社屋のほか、国道の電気室が被災した。排水路工、大型土嚢設置、H鋼防護柵工などの応急対策工事が進捗したため、国道は昼間の片側交互通行規制となった。その後、8月中旬の降雨時に1時間当たり5mm以上の変動が認められ、国道は被災していないものの、閉塞した沢からの土砂流出が懸念されたため一時的に通行止めとなった。

地すべり以降、ソフト面、ハード面の対策が検討され、応急対策工事に始まり、恒久対策工として、排土工、集水井工、鋼管杭工などが実施され、令和5年1月現在概ね完了し、ソフト対策として、様々な計測器が設置され日々監視されている。